

# 市民参加の結果と都市マスタープランへの反映の考え方

## 実施した市民参加の概要と調査結果

### 1. 市民討議会（平成 29 年 7 月実施）

「自分らしく生きるまち・茅ヶ崎の魅力  
～日々の暮らしから 好きな場所、身近な自然、ま  
ちなかでの移動 を語り合う～」をテーマに実施

- ・2,000 名に案内を募集、37 名が参加、9 グループに分かれて討議
- ・都市政策課（都市マスタープラン）と景観みどり課（みどりの基本計画・景観計画）とで合同実施

#### ◆討議②：まちなかでの移動

- 徒歩や自転車で移動する理由～嬉しい・楽しい気持ち良いとき～  
⇒散歩・散策、気分転換、季節を感じる、潮風や空気感、健康、路地での新しい発見、立ち止まって話すことで嬉しい気持ちに
- 買い物や北部（山側）への移動はバスや車が多い傾向
- 改善要素
  - ・高齢化により車利用が困難になることに備え、バスの利便性向上（北部等への利便性向上、情報提供など）
  - ・道路が狭く車や自転車が錯綜して危険
  - ・自転車のマナー徹底や教育：茅ヶ崎ルール

#### ◆討議①：茅ヶ崎の魅力の確認（好きな場所）

- 好きな場所は、自然、公園・緑地、文化・レクリエーション施設、みち、お店など多様
- 好きな時間に、家族や友人と、一人で、癒ややくつろぎ、リフレッシュを求めてウォーキングやサイクリング、買い物などの自由時間を楽しむ  
⇒自然や都市の便利さ、文化資源を身近に享受できることが魅力  
⇒海が見える・感じられる生活や、景観など、気持ちに起因する魅力要素が多い  
⇒人との触れあい・コミュニケーションも魅力要素

#### ◆討議③：身近な自然、みどり

- 公園などの拠点の緑、松林、街路樹はもとより、家にある緑も含め、今あるみどりを大切に。
- 市民主体や協働で取り組みたいこと、改善要素
  - ・みどりを知ってもらう取組／動植物の写真を撮って発信し伝える仕組み、里山公園の螢など象徴的なみどりや自然の対外的なPR
  - ・維持管理などに関わる取組／維持管理や費用負担などに参加したい人のための制度づくり
  - ・高齢化に伴う宅地のみどりの管理支援
  - ・荒廃した畑の生産緑地や市民農園としての活用
  - ・空き家や空き地の手入れや管理
  - ・街路樹の落ち葉清掃、鳥の糞害

### 2. ちがさきの都市づくりを考えるグループインタビュー（平成 29 年 8 月実施）

近年（5 年以内）茅ヶ崎市に転入したファミリー世代、高齢世代を対象に、転入理由や抱いていたイメージ、イメージギャップなどをグループインタビュー方式で把握

- （実施対象）
- ・子どものいる 30～40 代の男性、女性各 2 グループ
  - ・50 代以上の男性、女性各 2 グループ
  - ・計 8 グループ、33 名

### 3. 転入者への Web アンケート（平成 29 年 7 月～8 月実施）

近年（5 年以内）茅ヶ崎市に転入した方を対象に郵送で協力依頼を送付、URL・QRコードを案内し Web で回答する方式で実施

- ・転入理由、茅ヶ崎市以外に考えた居住地、住んでみての評価などを把握
- ・発送数：2,037 人、回答数：365 人（回収率 17.9%）

- 海を始めとする湘南のおしゃれなイメージは居住地選択のきっかけ
- 利便性も享受できる落ち着いた居住・生活環境が選択要素
  - ・藤沢市や横浜市などが競合地域
  - ・東京への鉄道アクセス、坂がなく駅や海などへの移動が容易、嗜好に応じた商業施設や憩いの場、身近に触れ合えるみどりや海、治安の良い落ち着いた住環境が強み
- 家族との近居や同居など、市外から戻って居住するケースも多い
- <改善要素>
  - ・水遊びができ屋根のある公園、歩いて行けるちょっとした広場
  - ・連続して歩ける河川堤防 など

- ・以前の市内居住経験者は約 3 割
- ・転入前の居住地は横浜市、藤沢市など県内が約半数
- ・茅ヶ崎市以外に考えた移住先は藤沢市 38%、横浜市 14%、平塚市 5%など。県内が約 8 割
- ・転入を決めた理由は、「海が近い」41%、「住宅価格・家賃が適当」30%、「交通の便」26%、「静かな居住環境」25%、「親や子どもがいる」25%、「まちの雰囲気」24%、「日常生活が便利」20%など
- ・住み続けたい理由として「まちの雰囲気」、「日常生活が便利」、「静かな居住環境」などが転入理由に比べて大きい
- ・転出したい理由は「行政サービス」「子育て環境」「公共施設や介護・医療施設」など

## 市民参加結果から見た視点

茅ヶ崎の魅力や生活の土台：自然と都市の共生

- ・海、山などの自然と都市機能、文化をそれぞれの好み、嗜好に応じて身近に享受可能
- ・自然環境の維持・保全と都市機能や利便性向上にバランス良く取り組むことが必要

自然と都市の共生とともに、東京への近接性、落ち着いた住環境が茅ヶ崎市の強み

- ・自然と都市の共生とともに、東京への近接性や落ち着いた住環境が強み。転入要因としても寄与

みどりや景観保全に市民との協働による取組を強化

- ・市民の参加意欲を協働につなげ、宅地のみどり管理や空き家対策、市民農園の活用などに関する仕組みづくりが有効
- ・気持ちに起因する魅力要素である眺望、まちなみ景観などの維持・保全が重要

ライフステージに配慮した活動の場と移動手段の確保・充実

- ・高齢化に伴い自動車での移動が困難となることにも配慮し、バスなどの公共交通の確保、充実が必要
- ・出産、子育て、介護など、ライフステージが変化する中でも子や親、介護する人される人が自分らしく過ごせる時間やコミュニティが必要

## マスタープランへの反映の考え方・方向性

### 目指す都市づくりの基本的な考え方・方向性

- 自然と都市（文化）が共生する都市づくり
- 安全な都市、落ち着いた住環境、みどりや景観資源を市民・事業者とも協働して守り育てる

### 分野別の取組の方向性

- <土地利用>
- 駅周辺をはじめとする拠点の機能とネットワーク充実
  - 海や山、河川といった軸や核となる自然環境の保全

- <交通体系整備>
- くつろぎやリフレッシュの場ともなっている歩行・自転車空間の環境整備
  - ・自転車のマナー徹底や教育
  - 高齢化にも配慮したバスなどの公共交通ネットワークの改善や拡充

- <自然・緑地整備>
- 公共空間のみどり～宅地のみどりまで、市民と協働して保全や維持管理
  - ・維持管理や資金確保の仕組みづくり

- <都市景観形成>
- 魅力要素である眺望、まちなみ景観などの維持・保全

- <住環境整備>
- ライフステージに応じた住まい方ができる住環境
  - 空き家の適正管理・利活用による住環境の向上

- <その他>
- 自然体な人柄や風土を土台とした世代間交流
  - 市外への情報発信

### 今後実施する市民参加（平成 30 年度）

- 13 地区説明会：改定素案の説明（4 月～6 月予定）
- パブリックコメント（11 月～12 月予定）
- 市民説明会等（未定）